

北区憲法フェスティバル

渡辺治教授の講演に300人、運動の方向性が見えた

10月21日（日）、北区憲法フェスティバルを開きました。参加人数はスタッフ含め役300人。大淀コミュニティセンター全体を午前11時から午後4時まで借り切って実施した「壮大な」イベントです。メインは、渡辺治・一橋大学教授の講演です。他にも、韓国の元従軍慰安婦を訪ねた神戸女学院大学の学生のミニシンポ、靖国史観賛美のDVDを検証するコーナーなどの学術的な企画。さらに、高校生・大学生の演奏やダンス、うたごえサークルの合唱、民商や新婦人の出店など、多彩な企画を繰り広げました。

渡辺先生は「9条の会」の事務局をされていて、いまの複雑な政治情勢と今後の運動のあり方を語ってくれるには、うってつけの人です。こちらの企画の意図を伝えたところ、こころよく了解していただきました。講演では、憲法9条のおかげで、戦後60年間日本が「戦争をしない国」でいられたことが具体的事実であとづけられました。改憲派が流す北朝鮮脅威論が、いかにまがい物であるかも、詳細な数字で示されました。さらに国民過半数の世論を獲得するための保守層を含めた運動の大切さが語られました。私たちが普段疑問に思っていることに正面からこたえていただき、これからの運動の方向性も見える、素晴らしい講演でした。

今回の集いで重視したのは、各人の問題意識と自主性でした。単に“講師を呼んで動員して終わり”ではなく、実行委員それぞれがいま何に関心を持ち、それがどうやったら企画に結びつくのかを考えるようにしました。僭越ながら渡辺先生には、事前に集いの意図を詳細に話して、「いまの複雑な情勢の解説と、今後の運動の方向を示して」いただくようお願いしました。神戸女学院や靖国DVD検証の企画も、議論するなかで熟成されてきました。出演する音楽団体には、それぞれ平和へのメッセージを込めた曲を演奏してもらおうようにしました。憲法9条や平和に、さまざまな角度から問題意識を持ち、それを企画化し、実現させていく。このような一連のプロセスを経るなかで、取り組みを成功させることができたと思います。